

平成30年度 調布市立調布小学校 学校経営計画

学校教育目標
 豊かな心のハーモニーを奏でる学校
 ○心もからだも健康な子(心とからだのハーモニー) ○よく考え、学び合う子(学びのハーモニー) ○力をあわせてやり抜く子(協力・協働のハーモニー)

目指す学校像(ビジョン)
 「共に生き、共に学び、夢と誇りをもち、一人一人が伸びていく学校」を統合理念として学校のめざす姿とした。一人一人の子供の個性や能力を最大限に伸ばし育てることが学校教育の役割である。「私も必要とされている」「一緒に伸びていこうとする仲間がいる」等、このように子供たちが実感できる学校だったら、毎日を楽しみにして学習や生活に意欲をもつことができる。また、「私は、今日～ができるようになった」「初めて～を知った」等伸びる喜びがある学校だったら、子供の目は、いつも輝くことができる。そのような学校を創るために、以下の4点をめざす学校像の柱とする。(1)命を大切に、他を思いやることのできる学校(豊かな心の育成) (2)児童一人一人が自らの良さに気づき、すすんで学ぶことのできる学校(確かな学力の育成) (3)すすんで運動に取り組み、心身ともに健康で安全な学校(健やかな体の育成) (4)地域に開かれた信頼と安心のある学校(学校を開く)

本校の現状と課題
 明るく素直で子供らしく、毎日の取組により挨拶ができる児童が多くなってきた。ほぼ、全体的に落ち着いた学校生活を送ることができている。授業において、主体的に学習することや人と人とのかかわりを積極的に深める取組を行ってきた。また、縦割り活動を通して、高学年のリーダーシップを発揮させる体験を通して、コミュニケーション能力や優しさや思いやりの気持ちを育ててきた。しかし、個別で観察していると、友達の間を察する力に課題がある児童がいる。また、各クラス数名、集団生活に適応することが難しい児童が存在する。特別支援コーディネーターを中心とした組織的対応により、支援を必要とする児童について、個別指導計画に基づいた指導の工夫や学校生活における合理的配慮の質を高めていく対応をすることで、概ね落ち着いて生活ができていく。学力面では、学力テストはどの教科とも都や市の平均点よりは高かった。どのクラスでも問題解決学習の手法やペア学習を取り入れた指導が行われるようになってきた。児童主体で対話がある授業がある程度身に付いてきた。校内研究で体育科の授業改善を図り、運動好きな子供を少しずつ増やしたことで、一昨年度課題であった体力テストの結果(全学年平均に達していない)は、概ね平均値に達する程度改善できた。大きな課題として、不登校児童や休みが確認しづらい家庭(連絡がなく休む家庭)も複数存在する。こまめに、関係諸機関との連携や家庭訪問や電話等での連絡をとっているところである。保護者は、概ね学校に協力的な方が多い。地域は極めて好意的で地域の学校として大切にされている。地区協議会が地域の中心となり、学校に協力的である。また、健全育成等やPTA・おやじクラブ・SHC等の活動が活発であり、地域行事をたくさん計画していただき、その熱い思いから児童の多くはその行事に参加している。

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標	
学力向上	<p>○主体的・対話的な授業スタイルを教員はもとより、多くの児童に定着させていく。すべての教科で、ペア学習や集団討議を行っていく授業をさらに広めていく。校内研究の体育学習を中心に、意欲をもって主体的に学習することができ、人と人とのかかわりを積極的に、かつ豊に深められる児童を目指して取り組んでいく。</p> <p>○一人一人に応じた指導の徹底を図り、どの子供も「今日～できるようになった」「初めて～ことを知った」という実感がもてるような学校にしていきたい。そのためには、日頃より、子供一人一人の考え方や学習状況を観察し、伸びを見逃さず賞賛していけば、子供の意欲が増していく。教員が一人一人の成長を見取ることを大切にしてい</p>	<p>○すべての教科などで、教えなければいけないところでは、丁寧に教えていき、繰り返すことで定着させる。考えさせるべきところは、問題解決学習を中心とした、児童主体の授業展開を教員全員が身に付けていく。</p> <p>○校内研究では、自分にあつめあてをもたせ、そのめあてを達成するために、友達と協力し努力する中で、学習意欲や主体的に友達にかかわっていこうとする積極的な態度を育てていく。</p> <p>○座席表などを使って、子供一人一人の考えや学習状況を記録し、児童の考えや考えの変化を的確に把握することで、その伸びを賞賛していく。さらに、日々の授業において、児童の発言や書かれたことを大切にしながら児童理解を図っていく。</p> <p>○特別支援コーディネーターを中心に、指導計画表を作成し個々に応じた指導ができるような体制を整えていく。学習支援室を活用した、教員と児童の1対1の指導を充実させていく。</p>	<p>○年3回の授業観察や毎日の短時間であるが、校内授業観察で気が付いたことを教職員に伝えていく。また、年間3回の自己申告面談や週案で進捗状況を把握していく。教えるべきところは、教える。児童に考えさせるところは考えさせる。なるべく、1時間内にペア学習を取り入れる。授業のまとめをして、本時で学んだことや友達の発表で良かったところを発表させるなど、授業観察する観点を明らかにしていくことで、改善を図る。</p> <p>○授業改善プランの改善を繰り返しながら、基礎・基本を定着させるための繰り返し学習、体験を通した学習など指導の工夫・改善をすすめる。また、学力に関する調査による児童の実態の把握に努め、授業改善を図りながら、自ら学ぶ意欲や主体的な学習の仕方を身に付けさせ「確かな学力」を身に付けていく。</p> <p>○年間6回の校内授業研究で、講師の指導を仰ぎながら児童が主体的に対話的で深い学びのある学習になっているかを検証し、教員の力量を伸ばしていく。</p>	<p>○年3回の授業観察や毎日の短時間であるが、校内授業観察で気が付いたことを教職員に伝えていく。また、年間3回の自己申告面談や週案で進捗状況を把握していく。教えるべきところは、教える。児童に考えさせるところは考えさせる。なるべく、1時間内にペア学習を取り入れる。授業のまとめをして、本時で学んだことや友達の発表で良かったところを発表させるなど、授業観察する観点を明らかにしていくことで、改善を図る。</p> <p>○授業改善プランの改善を繰り返しながら、基礎・基本を定着させるための繰り返し学習、体験を通した学習など指導の工夫・改善をすすめる。また、学力に関する調査による児童の実態の把握に努め、授業改善を図りながら、自ら学ぶ意欲や主体的な学習の仕方を身に付けさせ「確かな学力」を身に付けていく。</p> <p>○年間6回の校内授業研究で、講師の指導を仰ぎながら児童が主体的に対話的で深い学びのある学習になっているかを検証し、教員の力量を伸ばしていく。</p>	<p>評価指標 ※ 数値目標が可能な項目について設定する</p> <p>○管理職による、授業の見取り、指導、改善を図っていく。【1時間の授業内に、主体的な活動、対話的な活動(ペア学習・集団討議等)、深い学び(意見の交流等を通した課題解決)】がある授業かを見取り、教員に指導していく。(年3回)</p> <p>○授業改善プランが、成果をあげているかを教員と一緒に検証をしていく。有効なプランは、引き続き行い、有効性が低いプランは、別なプランに差し替えていく。</p> <p>○校内研究実技研修会などで学んだ方法を授業で実践しているか。日頃の授業の中で、めあてを意識した学習が行われているか(体育ノートなど)。休み時間に主体的な運動に取り組んでいる児童はいるか。体力の向上は認められたのか。</p>
健全育成	<p>○人権教育を基調とし、生命尊重の精神を培うとともに、広く人間を愛し、良いものを受け継ぎ、徳・知・体のバランスの良い発達を大切にしてい「調和の心」を培う。また、豊かな人間性や社会性の育成に努める。特に思いやりの心や命を慈しむ心をもつ児童の育成に指導の重点を置き、「生きる力」を育む。</p> <p>○いじめや不登校などに適切かつ迅速に対応できるように教員一人一人の教育相談機能や生活指導部を中心とした指導体制の充実を努める。また、いじめ対策委員会を中心に相談機関と連携しつつ、個別支援を充実させ、個に応じた指導を行う。</p>	<p>○縦割り活動を充実させ、各学年が仲良く過ごせるようにしていく。特に6年生は、下級生の模範を示し、思いやりの心を示せるように様々な活動を通して実践しながら下級生に示していく。このことで、「よいもの正しいものを受け継ぎ高めること」「徳・知・体のバランスのよい発達」を目指していく。</p> <p>○いじめを素早く見抜き迅速に対応するため、アンケート調査やカウンセラーとの面談をする。4・5年生全員面談、6年生と担任との面談の他に、必要に応じた1対1のカウンセリングを行い、その結果を管理職と担任と共有する。課題がある児童については、複数回面談を行う。また、月に1回アンケート調査を行い、その結果から必要に応じて、いじめ対策委員会や管理職と児童の面談を行う。</p>	<p>○年間を通して毎朝挨拶運動を行う。縦割り班活動を通して、良いもの正しいものを受け継ぎ高めていく活動を大切にしてい。今年度は、縦割り班をさらに充実させるために、1班の人数を減らし、どの児童にも班員としての自覚をもたせる。特に、良い行いについては、全校の前で紹介していく。また、職員室の小黒板を使い、児童の成長やよい取組について、教職員の中で情報共有をしていく。課題については、教職員に伝達し、確実に指導を行っていかせる。必要に応じては、校長から全体や個人に対して指導を行っていく。</p> <p>○児童自身に学級内・学校全体の生活指導上の問題点に目を向けさせ、改善する機会や行動化できる生活指導を行い、学年組織や学級組織内ですぐに取り組み解決できるようにしていく(2週間に1度の学年朝会等を活用していく)。また、今年度から、児童会を委員会活動に設置していく。学校全体での課題を児童会を中心とした中で、解決させていく。</p>	<p>○年間を通して毎朝挨拶運動を行う。縦割り班活動を通して、良いもの正しいものを受け継ぎ高めていく活動を大切にしてい。今年度は、縦割り班をさらに充実させるために、1班の人数を減らし、どの児童にも班員としての自覚をもたせる。特に、良い行いについては、全校の前で紹介していく。また、職員室の小黒板を使い、児童の成長やよい取組について、教職員の中で情報共有をしていく。課題については、教職員に伝達し、確実に指導を行っていかせる。必要に応じては、校長から全体や個人に対して指導を行っていく。</p> <p>○児童自身に学級内・学校全体の生活指導上の問題点に目を向けさせ、改善する機会や行動化できる生活指導を行い、学年組織や学級組織内ですぐに取り組み解決できるようにしていく(2週間に1度の学年朝会等を活用していく)。また、今年度から、児童会を委員会活動に設置していく。学校全体での課題を児童会を中心とした中で、解決させていく。</p>	<p>○教職員だけでなく、学校に来校した来賓や保護者に対してもすすんで挨拶できる児童を育てていく。(9割が目標)。</p> <p>○縦割り班活動を通して、高学年が下学年の面倒をみることで、リーダーシップを発揮する(行動観察)。</p> <p>○児童からの学校改善や学級改善のための意見を出させる。それを代表委員会や学級会で取り上げさせ改善について話し合い、行動化させていく(行動観察)。</p>
健康・体力づくり	<p>○オリンピック・パラリンピックアワード校として、子供の夢や希望をふくらませることのできる取組を通して、2020年度へ向けた意識の醸成を図っていく。</p> <p>○平成29年度の体力テストの結果(概ね一昨年度よりどの学年も向上してきた)と体育科授業向上の取組を受け、意欲をもって、主体的に運動する児童を育成する。</p> <p>○食物アレルギー等個々の特性に応じた、安全で確実な給食や調理実習等を実施していく。同時に食物アレルギー反応に対する危機管理できる体制を整える。</p>	<p>○東京オリンピック・パラリンピックを目指す、アスリートの実技や講演を見たり聞いたりすることで、子供一人一人の夢や希望をふくらませる。</p> <p>○体育科の授業改善を進めながら、体力向上を目指す。すすんで運動する児童を育成するために、年間6回の授業研究と講師の講演会や実技研修会を通して、校内研究の実践を積み重ねながら高めていく。</p> <p>○食物アレルギー対策において、特に配慮を要する児童が入学してきた。食事の場所の配慮・特別な人員配置をするなど、大変な配慮が必要となる。校内体制を整えることや複数回の保護者面談を行い、共通理解のもと、食物アレルギー対策を実践していく。</p>	<p>○スポーツアスリートと交流し、スポーツの体験をすることで、一人一人が夢や希望をもち、オリンピック・パラリンピックへの興味や関心を高めていく。</p> <p>○東京都でも中心に体育指導を実践している講師を毎回の研究授業や実技研修の指導技術の基礎・基本を教員が学んでいく。めあて学習についての理解を深め、すすんで運動する児童を育成していく。</p> <p>○体力向上を図るための取組(サスケタイム等)を意図的に組み入れていく。また、外で遊ぶことを奨励していく。</p>	<p>○スポーツアスリートと交流し、スポーツの体験をすることで、一人一人が夢や希望をもち、オリンピック・パラリンピックへの興味や関心を高めていく。</p> <p>○東京都でも中心に体育指導を実践している講師を毎回の研究授業や実技研修の指導技術の基礎・基本を教員が学んでいく。めあて学習についての理解を深め、すすんで運動する児童を育成していく。</p> <p>○体力向上を図るための取組(サスケタイム等)を意図的に組み入れていく。また、外で遊ぶことを奨励していく。</p>	<p>○体験したときの気持ちや感想を作文などで表し、オリンピック・パラリンピックへの関心を高める。</p> <p>○体育の授業を充実させ、体力の向上を図っていく。ポイントは、めあて学習・児童同士の教え合い・運動量・教師が一人一人の児童の見取り・安全性を中心にしていく。</p> <p>○昨年の体力調査と今年度の体力調査の比較をし、伸びや落ち込みを検証していく。具体的にどのような運動を取り上げて行けば良いのかを体育部を中心に検討していき、校内全体で実践していく(体力テストの結果)。</p>
保護者・地域との連携	<p>○学校と家庭や地域社会との連携をさらに深め、地域社会の人々や文化に触れる機会を通して、地域の一員としての自覚を促すとともに、相互の連携を深める交流事業を通して、さらに開かれた学校づくりに取り組む。</p>	<p>○調布市防災教育の日と地区協議会主催の防災訓練を1年間の地区協議会が相談してきた取組を実証する場としていく。そのために、毎月の地区協議会と学校の緊密な連携を図っていく。</p> <p>○地区協議会や健全育成等の数多くの事業に、教員がなるべくたくさん参加するようにしていく。</p>	<p>○調布市防災教育の日の取組(平成30年4月28日実施)では、警察(講演会や警備犬の救助訓練)や消防署との連携やトイレ組み立てや防災備蓄倉庫の確認、断水時の水の確保など訓練をしていく。避難所は、避難してきた人が自分のことのできることをみんなのためにやるのが大切であること意識をさらに高めていきたい。毎月1度の地区協議会との連絡会議を大切に、児童や地域の方々のいのちを守れるように訓練を重ねていく。</p>	<p>○調布市防災教育の日の取組(平成30年4月28日実施)では、警察(講演会や警備犬の救助訓練)や消防署との連携やトイレ組み立てや防災備蓄倉庫の確認、断水時の水の確保など訓練をしていく。避難所は、避難してきた人が自分のことのできることをみんなのためにやるのが大切であること意識をさらに高めていきたい。毎月1度の地区協議会との連絡会議を大切に、児童や地域の方々のいのちを守れるように訓練を重ねていく。</p>	<p>○調和小学校避難所運営マニュアルの実践・検証を行う。</p> <p>○さらに、保護者に、避難所運営の大切さや一人一人が避難所を支えていくという意識をもってもらえるように話をしていく。</p>
特色ある教育活動	<p>○開校以来受け継がれている『調和の心』がある。具体的な姿としては、「良いもの正しいものを受け継ぎ高めていく心」「徳・知・体の調和のとれた発言・発達」が具現化できるように指導を重ねていく。</p>	<p>○異学年交流を盛んにしてい、仲の良い学校を目指し、高学年のリーダーシップを発揮させていく。</p> <p>○図書館を有効利用していき、読み聞かせ活動の充実を図る。</p> <p>○地域と連携した伝統・文化理解教育・地域環境を活用した自然体験活動の推進を図る。</p>	<p>○たてわりタイム(年11回)集会活動(縦割り集会3回、縦割り準備集会3回)縦割り大縄集会、挨拶・奉仕運動(班持ち回りで、挨拶運動と学校周辺清掃を実施、縦割り班交流給食)等を通して、縦割り活動を定着させていく。1班の人数を減らし、各学年の縦割り班メンバー同士お互いの名前を言えるようにしていく。</p> <p>○年2回(6月、11月)の読書月間に、読書貯金(目標の冊数・ページ数を決め終わりに、振り返った感想を書く)やおすすめの本紹介カードを書く。また、読書月間のお知らせを保護者に出し、家庭での読書への理解と協力を呼びかける。</p> <p>○学校農園の活用(2年生)、野川の活用(3年生)、琴を取り入れた学習(4年生)、墨アート(5年生)、和太鼓(6年生)を予定している。</p>	<p>○たてわりタイム(年11回)集会活動(縦割り集会3回、縦割り準備集会3回)縦割り大縄集会、挨拶・奉仕運動(班持ち回りで、挨拶運動と学校周辺清掃を実施、縦割り班交流給食)等を通して、縦割り活動を定着させていく。1班の人数を減らし、各学年の縦割り班メンバー同士お互いの名前を言えるようにしていく。</p> <p>○年2回(6月、11月)の読書月間に、読書貯金(目標の冊数・ページ数を決め終わりに、振り返った感想を書く)やおすすめの本紹介カードを書く。また、読書月間のお知らせを保護者に出し、家庭での読書への理解と協力を呼びかける。</p> <p>○学校農園の活用(2年生)、野川の活用(3年生)、琴を取り入れた学習(4年生)、墨アート(5年生)、和太鼓(6年生)を予定している。</p>	<p>○管理職は、できるだけ全てに参加していく。教員は、1人2～3回程度参加していくよう話をしていく。</p> <p>○学校行事に、なるべくたくさん地域・保護者の方々の参加をお願いしていく。PTA運営委員会、月1回の地区協議会の会議、月1回の健全育成の会議等をお願いしていく。</p> <p>○縦割り班活動の成果を児童からの聞き取りや日記・作文など行動観察やアンケートから明らかにしていく。</p> <p>○おすすめの本紹介カードを掲示したり、図書担当より推薦する本を紹介する。</p> <p>○体験活動を楽しみ、地域のよさや地域の人の温かさ、芸術の素晴らしさ、楽器の演奏を通しての感動等を体験し、感謝の気持ちや体験の楽しさ等をお礼の会に招待したりや手紙に書いたりして振り返る。</p>